

# 世界に羽ばたけるソフトウェア品質技術者の人財育成 ～SQiPが考える、人、企業、社会が成長する新たな価値提供～

一般財団法人日本科学技術連盟  
品質経営推進センター  
品質経営・SQiP・MSグループ

<https://www.juse.or.jp/sqip/>

# 1. 一般財団法人日本科学技術連盟とは

設立：1946年5月1日（設立から77年）

目的：最新の経営管理技術の開発と  
普及を通して豊かな社会を創生する。

事業：「品質」「品質管理」を中核とした普及活動、  
社会の未来課題を達成するための教育事業の展開

- ◆教育・研修（セミナー）、研究会
- ◆表彰（デミング賞、日本品質奨励賞）、資格認定
- ◆QCサークル大会、シンポジウム、フォーラム
- ◆ISOマネジメントシステム審査登録
- ◆広報・出版
- ◆海外事業・国際活動・国際交流等

1980年：SPC（Software Production Control）を発足

目的：日本的品質管理（TQC、TQM、QC）をソフトウェア生産に適応するための調査、研究、普及を行い、日本のソフトウェア製品の品質向上と効果的開発手法、方法論の確立をするために発足。

2007年：SPCからSQiP（**S**oftware **Q**uality **P**rofession）へ呼称を変更、更なる活気あふれる活動に。

目的：SPC時代の理念から変わることなく、更なる日本的品質管理（TQC、TQM、QC）をソフトウェア産業へ適応するための調査、研究、普及を行うため。



**S**oftware **Q**uality **P**rofession

聖職者、医師、弁護士に次ぐ、  
第4の「Profession」として位置付けたい！

## ◇これまでのビジネスモデルでは立ち行かないのはわかっているが、なかなか転換ができない

近年、企業を取り巻く環境は目まぐるしいスピードで大きく変化しています。顧客の製品に対するニーズをとらえ、それをいち早く開発する事を得意としてきた日本の企業では、新興国の技術レベル向上により、製品の差別化が困難になり、また価格競争に巻き込まれることにより収益性低下や経営の継続力低下が課題となっています。特に、市場規模が急拡大する国々では、これまで日本で培ってきたビジネスモデルそのままでは成り立たず、これらの国に合ったソリューションへの変革が求められています。

このような状況下においては、これまでの商品の生産・販売を通じた顧客の満足度向上活動だけにこだわらず、新たな顧客価値の創造をめざし、顧客の懐に入り込み、顧客と同じ視点で顧客の問題解決（ソリューション）をより積極的に提供することにより、付加価値を提供する、いわば「サービスを提供するビジネス」への転換が更に必要となってきます。

これに対応するため、日本企業でも「ビジネスソリューション」という合言葉のもと、顧客満足度を向上する取組みが散発的に行われてきましたが、成果の創出まで至っているケースは少ない、と言わざるを得ないのが現状であります。

<[企業価値向上経営懇話会 趣意書](#)より>

## ◇日本の強みと言われてきた「品質」が狭義に捉えられ、主に製造業における品質問題が後を絶たない

日本の強みと言われてきた品質においても、品質管理の対象を単に狭義の品質としてとらえ、真の「品質経営」に進化させるまでに至らないまま今日を迎えております。

経営トップにとって「品質」は重大な経営の関心事と認識されなくなり、その結果、“品質危機”と言われるほど、企業の不祥事や品質問題が相次ぐという由々しき事態が散見されております。

これは、長年にわたって築き上げた品質ブランドを一瞬にして失墜させかねないものであることは言うまでもありません。

<[企業価値向上経営懇話会 趣意書](#)より>

**「品質教育」こそが  
日本の産業競争力をより高め、  
世界に負けないための  
最大の武器になる。**

**品質にしっかりと取り組めば、組織は賢く、強く、幸せになれる  
品質経営が有効である！品質なくして企業の存続なし！**

## ◇品質にしっかりと取り組む

- ソフトウェアを通じて、顧客に提供する価値を考える。
- 価値を提供し続けるために、組織的に必要な活動をデザインする
  - ・対象とするニーズを定める／新たに掘り起こす
  - ・ニーズを満たす製品・サービスの品質要素を計画する（広義の品質）
  - ・品質要素の実現度合い（狭義の品質）を保証するプロセスを確立する。
  - ・品質要素の実現に係る固有技術と、管理や品質保証に係る技術を進化させ、価値提供のスピードを加速する。
  - ・提供した価値に対する顧客満足の度合いを評価する。
  - ・「事実に基づく管理」を主軸にして、プロセスを継続的に改善する。
  - ・この過程で得られた知識を、組織的に活用する。

## ◇組織が賢く、強く、幸せになる

- 価値提供の結果 / 自社独自の経験 / 失敗に学び、組織が賢くなる。
- 組織独自の知識・技術（固有技術） / 継続的改善能力は、競争優位の源泉である。
- 賢く強く組織は、幸せになる。

# 5. SQiPの人材育成・品質教育

「すべての技術者に品質技術を！」

企業（人）の問題解決や課題達成を第一に考え、ソフトウェア品質知識体系ガイド SQuBOK Guide を軸にセミナー、研究会、シンポジウム、資格試験等、幅広く事業展開。

<SQuBOK Guide 網羅範囲>

基礎・実践

## ●研究会：

ソフトウェア品質管理研究会  
ODC分析研究会

実践（アウトプット）

## ●シンポジウム：

企業の成果・事例発表  
相互研鑽・情報交流の場

## ●国際活動

基礎（インプット）

## ●セミナー：

品質マネジメント概論／ソフトウェアレビュー／ソフトウェアメトリクス／ソフトウェアテスト／プロセス改善／要求・仕様／派生開発／アジャイル／PM・PJ等

## ●eラーニング／オンデマンド：

品質マネジメント概論／ソフトウェア品質技術／ソフトウェアレビュー／ソフトウェアテスト／アジャイル開発・マネジメント

評価（アウトプット）

資格試験

…知識・技術の適格性の証明



## <ソフトウェア品質技術者資格認定制度（JCSQE）>

- 企業の皆さんが、正しい知識・技術（SQuBOK、セミナー、研究会）を身に付け、
- 研究・技術の実践（実務、研究会）をし、
- 世の中に広く発信（シンポジウム、国際活動）をし、
- 評価、証明の一つとして、「ソフトウェア品質技術者資格認定制度」を設けている。

### ▽本資格認定の目的：

- ・本制度は、すべてのソフトウェア技術者に品質技術を身につけ、実践していくことによりソフトウェア品質の向上を実現すること

### ▽本資格認定の対象：

- ・品質保証部門のみならず、ソフトウェア開発者、テストエンジニアなどソフトウェア品質に携わるすべての方々

### ▽本資格認定の構成：

- ・初級、中級、上級の3段階により構成。  
初級試験は年2回、中級試験は年1回と定期的に実施。  
上級試験については今後新設予定。

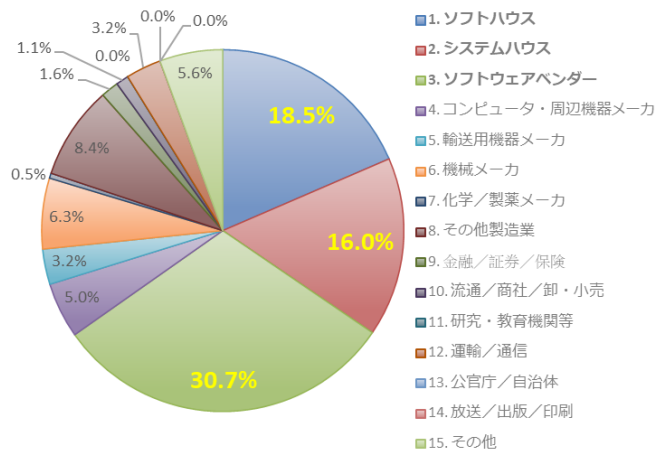
### ▽本資格認定の実績：

受験者数は延べ、初級は約12,000名、中級は約2,300名！  
初級有資格者：4,534名、中級有資格者：311名となっている。  
(2023/9/2現在)

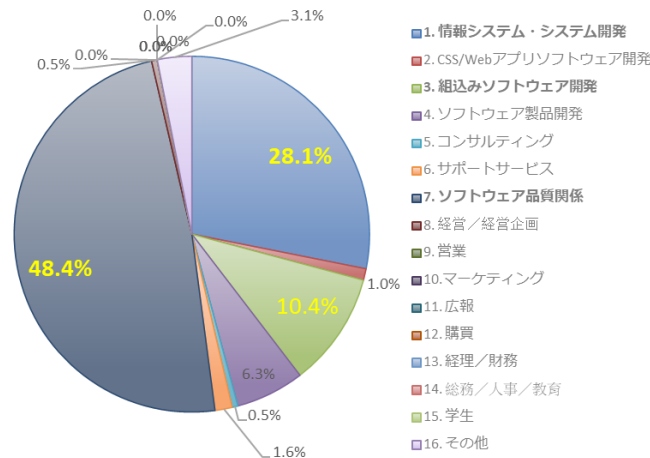
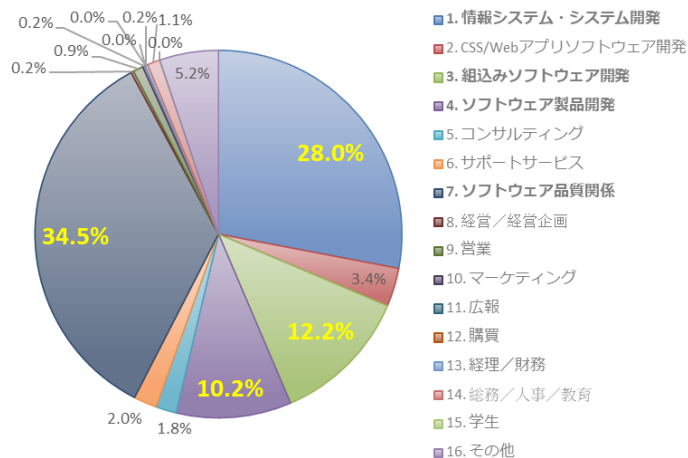
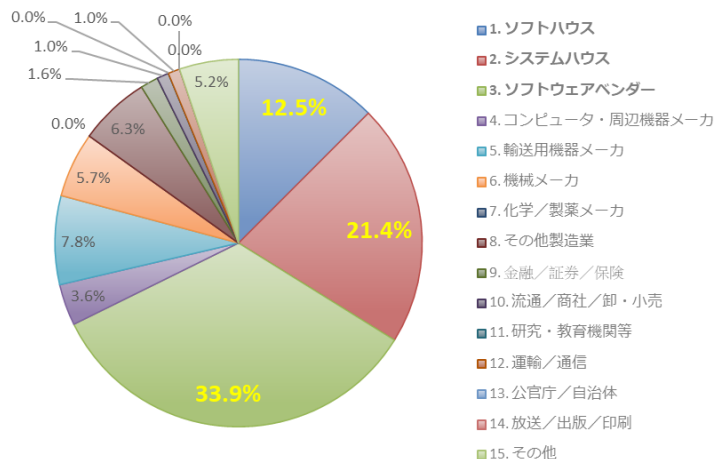


# 5. SQiPの人材育成・品質教育

● 初級試験の受験者情報（業種・職種）



● 中級試験の受験者情報（業種・職種）



# 5. SQiPの人材育成・品質教育

## ◆学習方法：

- ☑ [ソフトウェア品質知識体系ガイド – SQuBOK Guide – 第3版](#)
- ☑ [初級ソフトウェア品質技術者資格試験（JCSQE）問題と解説【第3版】](#)
- ☑ [ソフトウェア品質技術者初級セミナー 他 ソフトウェア品質研修](#)
- ☑ [ソフトウェア品質資格試験 過去の出題解説問題](#)
- ☑ [ソフトウェア品質向上プラットフォーム「Qbook」：テス友](#)



## ◆導入企業の声・合格者の声：

### ●当社では社内資格制度の必要条件としてJCSQEを指定し、スペシャリストの育成を目指しています！

当社では、グループ企業を含めて「NEC・サーティファイド・プロフェッショナル」（NCP）という資格制度を展開しています。NCPでは、「ソフトウェアアーキテクト」や「プロジェクトマネージャー」など、弊社のビジネスを遂行するために・・・。

### ●ソフトウェア品質を担保できる技術者であることを客観的に示す本資格の資格取得の推進！

厳しい競争環境に打ち勝つ競争力を確保するため、個人の技能と業務遂行能力のより一層の向上を目指し、社員のあるべき姿として「一人称で品質保証が出来ること」を目指して社員育成に取り組んでいます。弊社では・・・。

### ●品質技術者をプロフェッショナルに！

弊社では過去 TQC・TQM（全社的品質管理）を導入していたこともあり、日科技連でソフトウェア品質に関する教育が始まった1980年の黎明期から、品質教育には熱心でした。そのきっかけもあり・・・

<<< その他、JCSQE導入企業による活用事例やインタビューは「[こちら](#)」をご覧ください >>>

## ◆受験申込・お問い合わせ

### ●受験申込期間に、JCSQE Webサイトからお申込みください。

URL：<https://www.juse.jp/jcsqe/schedule/>

### ●お問い合わせ先：

一般財団法人日本科学技術連盟 品質経営推進センター 品質経営・SQiP・MSグループ

ソフトウェア品質技術者資格認定制度（JCSQE）担当

TEL：03-5378-9813 E-mail：[sqip@juse.or.jp](mailto:sqip@juse.or.jp) Webサイト：<https://www.juse.or.jp/sqip/>

◆NECグループ  
◆TIS・インテックグループ  
◆キヤノングループ  
◆NTTグループ  
他、組込みソフトウェア企業等  
社内計画への導入企業年々増加中！



<New!>

## <アジャイルSQC研究会> 設立趣旨

アジャイル開発においてもFour Keysなどの定量化が適用されてきており、その範囲はどんどん広がっていくと考えられます。しかし我が国ではまだあまり事例が共有されておらず、どのような定量化がどのような状況に適しているのか、どのような分析技法があるのか、などの議論はほとんど行われていません。そこでアジャイルSQC研究会では、企業や組織の枠組みを超えてアジャイル開発における定量化および分析の議論や研究を行い、その成果を産学に還元することで貢献して参ります。

- 目的：アジャイル開発における定量化に関する分析技術の研究・実践および事例提供を目的とします。
- 研究テーマ：
  - ・ Four keysのようなアジャイル開発における定量化
  - ・ 平均テスト実行時間やFlakinessのようなCI/CDやDevOpsにおける定量化
- 頻度：月1度程度のクローズドな会合（オンライン）を実施しております。
- 成果の公開：定期的に、概要をRSGTやDevOpsDays、ScrumFest、SQiPシンポジウム、JaSST、不定期の無償ミートアップなどで公開する予定です。また詳細について研究会内部で共有するとともに、日科技連の有償セミナーでも公開する予定です。
- 参加費：無料
- 参加資格：
  - ・ 自社のデータや分析事例などを（匿名化などを十分施した上で）研究会に提供できるよう組織と交渉する意思のある方
  - ・ 定期的に会合に参加して議論できる方
  - ・ アジャイル開発における定量化や分析について強く興味がある方

### ▼参加申込はこちらから

[https://www.juse.or.jp/sqip/agile\\_sqc/index.html](https://www.juse.or.jp/sqip/agile_sqc/index.html)



## (1) SQiPの基本理念

- 品質にしっかりと取り組めば、組織は賢く、強く、幸せになれる
- 企業（人）の問題解決、課題達成のための事業継続

## (2) 専門団体、企業との更なる連携・協業・共創（協創）

- 長きにわたり、企業（人）に寄り添って、品質教育を実施
- 管理技術（経営・マネジメント・開発を含む）の重要性
- 自社のコア技術（固有技術）と管理技術の二輪走行

## (3) （日科技連として）顧客価値創造、品質を中核とした事業展開

- デジタル化時代に伴う事業変革
- モノづくりからコトづくりへ コトづくりからモノづくりへ
- 品質の意義：  
狭義（ものの出来栄え）ではなく、広義（社会や顧客のニーズを満たす度合い）

## (4) 人材確保・人材育成

- 製品・サービスの多様化に伴う、適切な人材確保、教育・育成
- デジタル人材、データサイエンティストの教育・育成

等々

# 7. 注目セッション

## <このあとすぐ!>

- テーマ：「日本のDXを阻害する障害は何か？  
～DXの魅力的品質を高めるには何をすべきか～」
- 講演者：福井 信二 氏（株式会社Goldratt Japan）



## <9/8 10:55～ Cストリーム>

- テーマ：～製造業のソフトウェア化へ向けて～  
ソフトウェアがリードする開発で、サービス変革を実現しよう
- 講演者：蒼田 直美 氏（株式会社イデソン）



## <9/8 13:00～ Cストリーム>

- テーマ：「ソフトウェア品質知識体系ガイド」  
SQuBOK V4 に向けた取り組み、最新情報」
- 登壇者：手塚 聡子 氏（株式会社日立製作所）  
辰巳 敬三 氏（一般財団法人日本科学技術連盟 技術顧問）



他にも多くのセッションをご用意しております！



# appendix

# 8-1. 階層から見るSQiP事業マップ

		内容					
		考え方	手法	手順	資格認定	研究会	eラーニング シンポジウム・大会・フォーラム
階層	社長・役員 ／部長クラス						
	部長／課長 クラス						
	課長／係長 クラス		実践！ソフトウェア品質向上のための原因分析セミナー				
			実践！管理者のためのソフトウェア品質マネジメントセミナー				
			実践！プロジェクトマネジメントセミナー				
係長／主任 クラス		品質重視のアジャイル開発セミナー（概要編・技法編）					
		AIソフトウェアの品質保証セミナー					
		ソフトウェアテスト分析手法 実践セミナー【New】					
		実践！ソフトウェア品質保証のためのメトリクス活用セミナー					
		実践！ソフトウェア品質向上のための技術者セミナー					
主任／一般社員 クラス		ソフトウェア不具合改善手法 ODC分析の基礎セミナー					
		実践！XDDP（派生開発プロセス）セミナー					
		データ指向のソフトウェア品質マネジメントセミナー（基礎編・技法編）					
		JSTQB認定ソフトウェアテスト技術者 Foundation Levelトレーニングコース					
		ソフトウェア品質技術者初級セミナー					
		基礎から学ぶソフトウェア品質マネジメントセミナー					





## <品質経営・TQM>

- 全社的品質管理、階層別教育（役員、部課長、係長・主任）を中心に、経営管理技術、方法論、失敗学や品質不正防止、SSM等の未然防止関連等、幅広く実施。

▼詳細はこちら：

<https://www.juse.or.jp/src/seminar/result.php?c=38>



## <マネジメントシステム（MS）>

- ISO規格：QMS、EMS、ISMS、FSMS、IATFの要求事項解説、詳細解説、内部監査員、情報セキュリティ、監査員検定対策講座等、多岐にわたって実施。

▼詳細はこちら：

<https://www.juse.or.jp/src/seminar/result.php?c=44>



## <カスタマイズ研修（社内研修）>

- 企業のニーズ、問題や課題に応じて、内容、開催日程、日時、取り上げる演習題材等、企業の担当者との打ち合わせを踏まえ、独自の内容（カスタマイズ）で実施。当財団で実施していないテーマ・内容でもご相談をいただければ検討・調整・実施が可能。また、独自のオンデマンド教育の作成も可能。

▼詳細はこちら：

[https://www.juse.or.jp/service\\_solution/lecture/](https://www.juse.or.jp/service_solution/lecture/)



## <品質経営・SQiP・MSグループ>

- オンデマンド研修も充実、時間にとらわれず、ご自身のタイミングでいつでもどこでも受講可能。



品質経営・SQiP・MSグループ

## オンデマンドセミナー

(品質経営、ソフトウェア品質 (SQiP)、マネジメントシステム (MS) など)

▼詳細はこちら：

<https://mail.juse.or.jp/jcloud/index.php/s/bK8Awmwim58frXA>

ご質問などは下記までお願いします。

一般財団法人日本科学技術連盟  
品質経営推進センター 品質経営・SQiP・MSグループ

- 品質経営 : [tqmsemi@juse.or.jp](mailto:tqmsemi@juse.or.jp)
- SQiP : [sqip@juse.or.jp](mailto:sqip@juse.or.jp)
- MS : [iso-kensyu@juse.or.jp](mailto:iso-kensyu@juse.or.jp)

— 品質経営で明るい未来を創る —